

第 2 期広島県県営林中期管理経営計画の達成状況について（案）

1 要旨・目的

県営林中期管理経営計画（第 2 期[令和元～5 年度]）の実施期間が今年度末で終了するため、第 2 期の成果及び課題を検証した。

2 現状・背景（第 2 期の検証）

（1）検証の視点

第 2 期の目指す姿である「木材生産事業と保育事業を併せた経常利益の確保」の取組状況に加え、成果目標である「木材生産量の確保」や、そのための活動指標である「事業地の確保」などについて、これまでの取組による成果や課題を分析した。

（2）対象

令和元年度から 4 年度までの 4 年間に実施した県営林事業の取組を検証対象とした。

（3）検証結果（概要）

安定的な木材生産及びコスト削減や有利販売に取り組むとともに、県営林事業の委託団体と緊密に連携したマネジメントにより、木材価格の乱高下など厳しい情勢の変化にも適切に対応した。

こうした取組により、「経常利益の確保」及び「木材生産量の確保」については 4 年間継続して目標を達成し、また、活動指標である「事業地の確保」については、4 年間の計画 2,220ha に対し事業実施面積が 1,872ha となり、84%の達成率となった。

なお、主な課題については、以下のとおりとなった。

目標	達成状況	成 果	主な課題
【目指す姿】 経常利益の確保	達成 R1～4 計 目標 49 百万円 実績 216 百万円	安定的な木材生産等の取組や適切なマネジメントにより、4 年間継続して経常利益を確保した。	物価の高騰や人件費の上昇により、施業コストの増加が続いている。
【成果目標】 木材生産量の確保	R1～4 計 目標 186 千 m ³ 実績 211 千 m ³ (達成率 113%)	需要の高い規格の木材を生産するとともに、バイオマス材も需要に応じ積極的に出材した結果、4 年間継続して目標を達成した。	「事業地の確保」は、保育・利用間伐、主伐ともに実績が計画を下回った。 ・アクセスや地形など、条件の悪い事業地の施業が停滞している。 ・施業を請け負う林業事業体の確保が困難になっており、特に、施業技術や工程管理が複雑な利用間伐を請け負う林業事業体の確保がより困難になっている。
【活動指標】 事業地の確保	R1～4 計 計画 2,220ha 実績 1,872ha (達成率 84%)	林齢や過去の施業情報を分析して事業地を選定するとともに、土地所有者の分収割合変更の同意取得や施業を請け負う林業事業体の確保を推進することなどにより、計画の 84%を達成した。	・分収割合変更不同意（約 2 割）の土地所有者が依然として存在している。 ・施業実施の判断基準の明確化及び森林の現況調査の効率化が必要。
新たな環境変化	・物価の高騰や人件費の上昇 ・豪雨災害の激甚化及び頻発化 ・労働力確保の困難化		